資料４

～新たな海辺の文化の創造の検討の骨子～(素案)

■社会経済情勢の変化

①総人口の伸び率の鈍化

②経済社会の成熟と生活の多様化
- 量から質へ
- 余暇活動の多様化
- ゆとりと安らぎの希求

③社会参加の意識変化
- 地域づくりへの市民参加の増加
- ＮＰＯの実行力の向上

④自然環境の価値の見直し
- 里地里山の価値への注目
- 干潟・湿原等への関心の高まり
- 生物多様性の維持

⑤自然に対する意識変化
- 農山村地域への志向増加（暮らし、体験）
- 都市部での自然環境創造

⑥人と海辺のかかわり方の変化
- 生産・生活利用からレクリエーション利用へ

公共事業を取り巻く環境 ⇒質が問われる

- 財政悪化の中での事業費削減
- 社会資本の量的拡大から質的充実が求められる時代（海岸保全においては、防護 ⇒ 防護、環境、利用）
- 公共事業の効率性批判
- 「防護」水準の向上
- 公共事業に対する市民満足の低下
- ストックの増大と継年による維持補修の比重の拡大

上位・関連計画等
- 海岸法の改正（平成１１年）
  法目的に「環境の保全」「海岸の適正な利用」を追加
- 港湾法の改正(平成12年)
  法目的に「環境の保全に配慮」を追加
- 「今後の海岸保全の基本的考え方（基本方針）」（平成１２年1月、四省庁合同）
- 「生物多様性国家戦略」（平成１４年３月閣議決定）
- 「第６次海岸事業５ヶ年計画」（平成８年１２月閣議決定）
- 環の国づくりの推進（平成１３年２月１６日　内閣総理大臣決裁）
- 自然再生法
- 「海辺ニーズに関する世論調査」（平成１２年８月、総理府）

- 古代
  生産、生活利用（採貝、沿岸漁業、交通拠点）
  宗教的利用（信仰、神社）
- 近代
  生産、生活利用（潮干狩り、地引き網、製塩、海洋療法）
  レク利用（日光浴、海水浴）
- 現代
  社会参加的利用（ボランティア・ＮＰＯの参画）
  レク利用（ビーチスポーツ）

生産・生活利用の減少
一時的な利用の比重の増大

■現状の課題

海辺づくり ⇒ 成功例と失敗例
- 周辺と調和しない人工的景観
- 質的充実、特に環境についての技術レベルの遅れ（防護と環境・利用の調和の方法が未確定）
- 行政施策と住民意見との乖離
- 生物への配慮の不足
- 緩傾斜堤とするための浜幅の減少
- 市民の海辺づくりへの参加不足

海辺の環境 ⇒ 悪化
- 干潟、藻場の減少
- 砂浜の後退、減少
- 水質、底質の悪化
- 多様な生物の生息、生育空間の減少
- 景観の悪化
- ゴミ・漂着物散乱の増大（特に海外からの漂着）

海辺の利用 ⇒ 希薄、単調
- 海辺づくりの担い手である生産者の減少
- 海辺利用の単調さ（海水浴など季節と内容に偏り）
- 環境教育の場としての有効活用の不足
- ゴミの投棄などのモラルの低下
- 海辺への愛着、関心の減少

■海辺文化創造の必要性

行政の機能・客観性重視の視点と市民の生活・主観重視の視点とのかい離が現状の課題を生じさせている原因の一つではないか？

「真に社会が目指すべき海辺の姿」が明確化・共有されていないことが現状の課題を生じさせている原因の一つではないか？(専門家と非専門家を対話不足)

「人と海辺との付き合いの希薄さ」が現状の課題を生じさせる原因の一つではないか？

行政のみの海辺づくりには限界があるのではないか？

↓

人と海辺の関わりの再構築（新しい海辺の文化の創造）

社会が目指すべき海辺の姿の明確化

多様な主体の協働により目指すべき海辺の姿を実現するための具体的方策の構築

■理念及び目標

自然と共生する社会の実現

美しい国土の創造

多様な主体の協働

↓

人と自然の共生した新たな海辺の文化の創造

多様な主体の協働による目指すべき海辺づくりと海辺の姿の実現

■課題解決の基本方針

5つの基本方針

①人と海辺の付き合い方・関り方の再構築

②社会が目指すべき海辺（里浜）の姿の明確化・共有

③多様な主体の協働による海辺づくり

④環境教育の充実等による環境意識の向上

⑤活動メニューの多様化・充実とそれを通じた海辺への愛着の向上

↑

5つの基本的な視点

①地域の個性重視と国の側面的支援

②多様な主体の連携・ソフト面については地域、市民、ＮＰＯ主導

③海辺づくり活動や海辺で愉しむことの日常化

④実現のための具体的なシステムづくり

⑤事例に学ぶ事例と積み重ねる

■施策の具体的な検討

「新たな海辺の文化の創造研究会」
- 新たな海辺の文化の必要性
- 実現すべき「海辺の文化」「里浜」の姿の明確化、共有
- 各部会の活動の考え方・施策の方向性の統一

（１）里浜づくりの推進
①「里浜」の概念整理
②「里浜」づくりを推進するためのシステム
③モデル地区における検討、評価
④計画段階からの市民参加型海辺づくりの進め方についての指針の作成
⑤ボランティア・サポート・プログラムなど地域住民・ＮＰＯ等を主体とした海辺の管理の進め方

（２）海辺の自然学校づくりの推進
①人々が海辺の自然とのふれあい体験を通して、環境について学習し、環境保全意識を醸成するための場づくりの進め方
②海辺の自然学校の存在意義・使命、活動内容、運営形態、学習プログラム
③モデル地区の設置、評価
④指導者養成システム
⑤海辺の自然学校ネットワークの構築
⑥自然学校経営者支援

（３）ビーチスポーツの振興
①ビーチスポーツ振興の意義
②ビーチバレーを代表例として多様なビーチスポーツの振興を通じた海辺の利用の促進方法
③それを通じた地域の交流の促進方法、里浜づくりの意識の高揚方法

↑

事例研究
①他の地域づくりにおける事例の研究
②海辺づくりにおける事例の研究

↓

■施策の具体的な実施

モデル地区における試行

「里浜（目指すべき海辺の姿）」概念の明確化

里浜づくりを進めるためのシステムづくり

市民との協働による里浜づくりの推進

成功例の積み重ね

海辺の自然学校づくりの推進

ビーチスポーツの振興

地域の個性重視

全国的に普及

新たな海辺の文化の創造－里浜の実現

↓

市民の満足度、自然との共生度の向上